

2021年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人臼井学園ひなぎく幼稚園

1. 本園の教育目標

神を敬い、人を愛するキリスト教の精神に基づく教育を行う。

各々の幼児の可能性を引き出し、人格の基礎を確立することを保育の目標とする。

2. 本年度重点的に取り組む目標

- ・キリスト教保育の継承と遊びを中心とした保育の継続
- ・ICTの促進
- ・未就園児の会と預かり保育の充実
- ・新型コロナウイルス感染防止のための対策

3. 評価項目の達成及び取り組みの状況

	評価項目	評価	取り組みの状況
1	キリスト教保育の継承 遊びを中心とした保育の 継続	B	教職員礼拝と月例全教師会 1回/月 園内研修 各学年 6回/年 電動糸のこ購入など木工教育の環境改善と藍染め等美術工芸 教育の推進。野菜、作物栽培での自然教育、食育の実践。
2	未就園児の会の充実	B	未就園児の会・園庭開放の開催回数増加が地域貢献になった。 未就園児の会の会員登録により、家庭での遊びの提案の動画配 信が可能になった。 食育講座の開催と人形劇クラブの公演が好評だった。
3	預かり保育の充実	C	長時間、及び夕方より良い過ごし方が課題。
4	ICTの促進	A	保育参観、行事の配信、保育報告の配信、Zoom 父母会、 園児および家族の体調把握及び休日の連絡に有効
5	新型コロナウイルス対策	A	三密回避・マスク着用・黙食・備品、衛生品購入・BCP作成 消毒、清掃。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	教職員は新型コロナ対策を献身的に行った。 教職員礼拝、月例全教師会、園内研修会が定着した。 ドキュメンテーションなど保護者への保育報告の動画配信、および ICT 導入により事務作業 の省力化が進んだ。未就園児の会・園庭開放の開催増とそれに伴うメニュー増は地域の子育 て世帯や園庭のない近隣の小規模保育所に貢献できた。一方、現在の保護者のニーズが高い 預かり保育の内容は利用者人数の増加に伴う内容の直しが必要である。

※評価 (A...十分に成果があった B...成果があった C...少し成果があった D...成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教職員の勤務時間の再編成と新採教諭の育成	7:15~16:00、7:45~16:30、8:15~17:00、10:00~18:45の4パターンとする。 副主任を置き新採教諭の育成と主任のサポートに当たる。 主任は預かり保育、未就園児の会にも注力できるようにする。
2	未就園児の会の充実	企画の段階から主任が参加、地域への発信力を高める。
3	預かり保育の充実	主任も参画し、カリキュラムを立てる。保育報告として利用者にドキュメンテーションを配信する
4	HP、SNSの活用	定期的に更新し、情報発信力を高める。
5	満3歳児クラス	満3歳児クラスの開設を検討する

6. 学校関係者評価委員会の評価（2022年3月実施）

- ・新入園児増は、全教職員の尽力の結果であり評価する。
- ・コロナ感染対策に万全はない。幼児教育機関として可能な限りの対策と、保護者及び全教職員のさらなる理解と協力を求む。
- ・不測の事態が多かった2021年度への対応は評価するが、密を避けるための行事の分散化とそれに伴う規模縮小、ICTの活用等がそれぞれに与える影響を検証し、次に繋がる展開となることを期待する。
- ・「預かり保育の充実」には様々な課題がある。子どもにとっての夕方の過ごし方と保護者のニーズ、子どもの発達過程と保護者の期待値、対応する教員の質など双方が喜べる時間の過ごし方を模索してほしい。
- ・「満3歳児クラス」の開設については、場所や人員について困難との指摘あり。ただ、課題の整理や実現に向けての検討は必要であり計画を進めること。
- ・園の教育目標を職員と保護者が常に共有し、必要であれば話し合いを重ねること。
- ・教職員の働き方について、自由な意見交換が可能となる仕組みの検討を願う。

以上